

越谷市文化連盟  
平成13年度

『こしがや文化芸術祭』  
平成14年3月3日（日）

# 越谷市郷土研究会 展示部門出品紹介

於 越谷コミュニティセンター ポルティコホール

お お み ち

# 大道遺跡

宮 川 進

加 藤 幸 一

# 大道遺跡（仮称）

宮川 進

市内大道の大道遺跡については、昨・平成十三年秋に、越谷市教育委員会の発掘調査がおこなわれ、平安時代前期（九世紀から十世紀）の六軒の竪穴住居跡などが発見されました。遺跡は元荒川の左岸・自然堤防上にあります。

市内を流れる元荒川の右岸、左岸や古利根川右岸の自然堤防上には、別図の通り、古代に私たちの直接の先輩が暮らした遺跡が数多く眠っています。

大道遺跡に住んだ人たちは、現在の私たちの直接の先祖ではありません。しかし、このような人たちがこの越谷の地に住み、そして、その後も住み続ける人たちがあったために越谷ができ、私たちも越谷に住むようになったのではないのでしょうか。

そういう意味で、大道遺跡に生きた人たちの歴史は「私たちの歴史」です。私たちは自らの歴史を消すようなことがあってはなりません。大切に、大切に、これらの遺跡を保存していきたいものです。

## 《大道遺跡で発見されたもの》

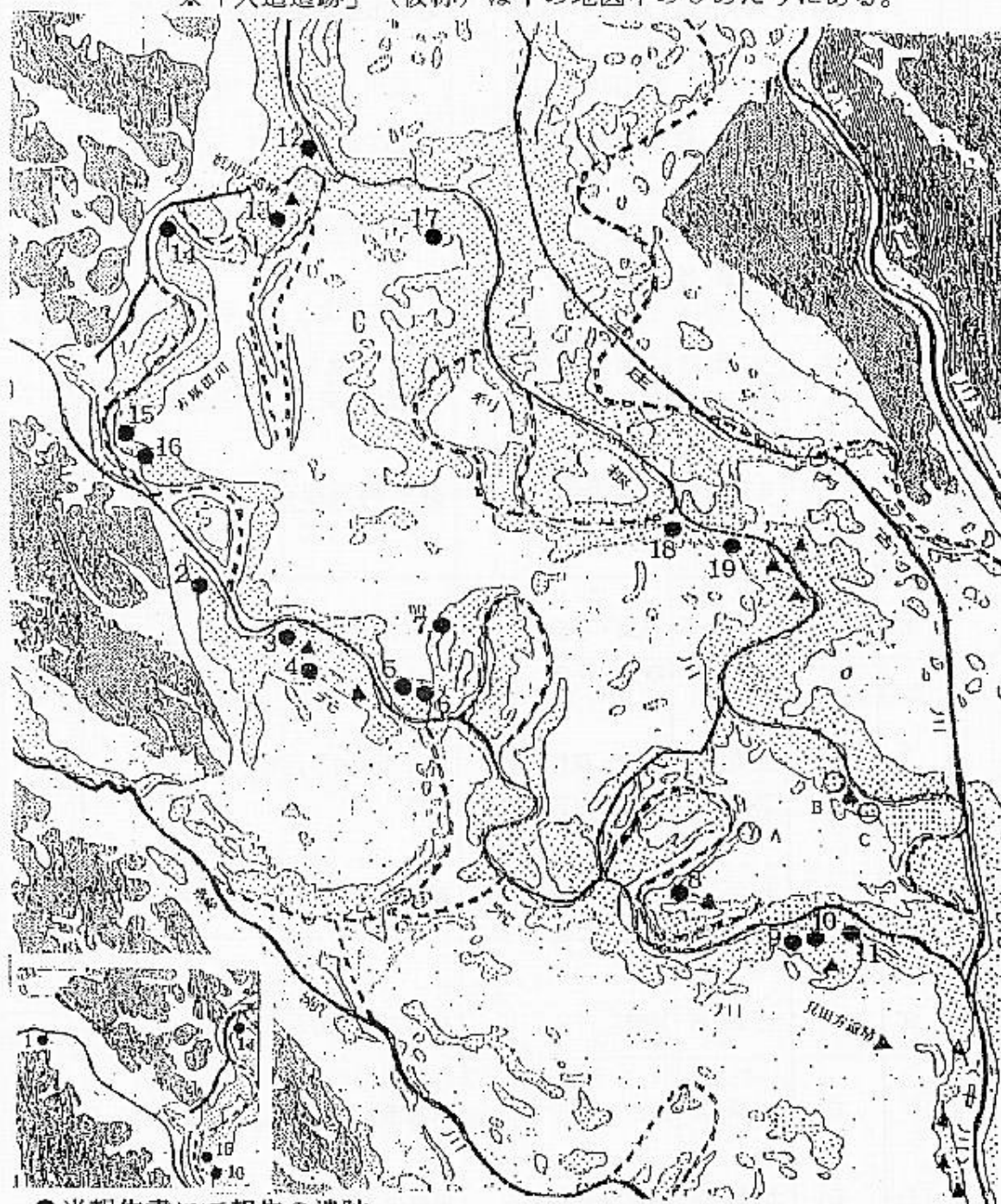
- ◎平成時代（九世紀から十世紀）の住居跡 六軒
- ◎中世から江戸時代の掘立柱建物跡 一棟
- ◎土師器・須恵器（甕・坏・皿など） 多数
- ◎その他 漁業用土錘（おもり）、砥石など

※土師器・・弥生土器の系譜につながる、古墳時代以降の素焼きの赤褐色の土器。文様は少なく、実用的で、煮炊きや食器に用いるものが多い。  
※須恵器・・古墳時代後期から奈良・平安時代に行われた、大陸系技術による素焼きの土器。高温の還元炎で焼くため暗青色を呈する。（広縄より）



# 埼玉県東部低地遺跡分布図

※「大道遺跡」（仮称）は下の地図中の5あたりにある。



●当報告書にて報告の遺跡

▲中川低地遺跡確認調査報告書などにて、すでに周知の遺跡

当低地には、他に春日部市谷原新田遺跡《弥生中期》があるが、土器出土の正確な場所不明のため、本地図への記入は省略した。

— 現河川    - - - 過去の河川流路(一部は推定)    ■ 台地    ● 自然堤防

※土地分類基本調査 大宮(埼玉県開発部調整課 73・3発行)、野田(埼玉県内 埼玉県企画財政部土地対策課 80・3発行)の地形分類図を参考とした。

埼玉県東部低地における遺跡調査報告 宮川進 = 越谷市郷土研究会会報第7号(H4.6刊)の地図に山本泰秀氏の越谷市増林での調査成果を加筆

## 1. 元荒川水系

番号	右左岸	採集遺物	時代	所在地	備考
1	右	縄文土器 土師器	縄文時代中期 奈良・平安	岩槻市金重飛地字里477他	
2	右	須恵器	奈良・平安	岩槻市飯塚字古川	針状物質
3	右	土師器 須恵器	平安 奈良・平安	岩槻市末田字宿1494他	針状物質
4	右	土師器 須恵器	奈良・平安 奈良・平安	越谷市野島278他	
5	左	土師器 須恵器	奈良・平安 奈良・平安	越谷市大道字上手85他	針状物質
6	左	土師器 須恵器	奈良・平安 奈良・平安	越谷市大道字上手187他	
7	左	土師器 須恵器	古墳・奈良・平安 奈良・平安	越谷市大竹字西浦	
8	左	土師器 須恵器	奈良・平安 奈良・平安	越谷市栗越谷3丁目15他	針状物質
9	右	土師器	平安	越谷市相模町6丁目487付近	
10	石	土師器	奈良・平安	越谷市大成町1丁目2180	
11	右	土師器	奈良・平安	越谷市大成町1丁目2268-1他	

針状物質と注のあるものは須恵器のなかに針状物質を含んでいるもので、埼玉県内南北企鵝跡群でつくられたと推定される。

埼玉県東部低地における遺跡調査報告 宮川進 = 越谷市郷土研究会会報第7号 (H4. 6刊) =

## 2. 古隅田川水系

12	右	土師器	古墳・奈良・平安	春日部市梅田1丁目468他	五領式を含む
13	左	須恵器	奈良・平安	春日部市浜川戸2丁目2-14	浜川戸遺跡西限か
14	左	縄文土器	縄文時代中期	春日部市新方袋宮川耕地	
15	左	土師器	古墳・奈良・平安	春日部市増戸字天神原229他 真菰原16他	針状物質
		須恵器	奈良・平安		
16	左	土師器	古墳・奈良・平安	岩槻市長宮字前田1199他	針状物質
		須恵器	平安		

## 3. 古利根川水系

17	左	土師器	古墳時代前期	春日部市南3丁目14-4付近	五領式
18	左	須恵器	平安	越谷市船渡2101	
19	左	土師器	平安	越谷市船渡字下川原2322他	

## 3. 古利根川水系 (山本泰秀氏による成果)

番号	右左岸	採集遺物	時代	所在地	備考
A	右	弥生土器	弥生時代後期	越谷市増林 1-33.34 47-49	
		土師器	古墳時代前期		
B	右	須恵器	奈良・平安	越谷市増林2662付近	
C	右	縄文土器	縄文時代中期 縄文時代後期	越谷市増林4323-1他	
		土師器	古墳・平安		
		須恵器	古墳・平安		

## 掘立柱建物跡は、 「帰命院」と呼ばれる寺院跡

加藤 幸一

平成十三年秋に試掘調査が行われた大道遺跡のうち、香取神社南側の畑地から出てきた掘立柱建物跡は江戸時代の「帰命院（きみょういん）」と呼ばれる寺院跡と推定できる。

この地には以前から「寺院があった」との言い伝えがあり、この言い伝えが一層確かなものとなった。この遺構のさらに南方の道路側にはその名残としての墓地が見られる。では、「その寺院の名称は」となると、誰も答えられる者がいない。

江戸時代に作成された『新編武蔵風土記稿(しんぺんむさしふどきこう)』に記載された大道村の寺院は二つあった。明治の初め頃に全国的に荒れ狂い、わが国の仏教界に大きな打撃を与えた「廃仏毀釈(はいぶつきしゃく)」の運動がこの地にも当然及んで、二つの寺院が廃寺となってしまったのである。それは、正福院(しょうふくいん)と帰命院である。明治に作られた『武蔵国郡村誌』には次のように記載されている。

正福院廃跡	村の南の方にあり、明治七年廃して今は村民の宅地となる。
帰命院廃跡	村の西の方にあり、明治七年三月廃して今は村民の畑地となる。

正福院については、現在の八坂家(やさかけ、大道四八七)敷地内にあったことが八坂勲氏からの聞き取り調査により判明した。するとこの掘立柱建物跡は、もう一方の寺院である帰命院に違いないのである。

この寺院は、『新編武蔵風土記稿』によると、本尊が不動明王(ふどうみょうおう)となっている。現在、南側にある道路に面した所に寺院の本尊としてふさわしい不動明王像が祀られている祠がある。この不動明王像が帰命院の本尊と思われる。

参考までに、帰命院について『新編武蔵風土記稿』に記載された内容や試掘調査などをもとにしてまとめてみると次のようになる。

帰命院は、江戸時代に存在していた真言宗の寺院。隣の三之宮村にある一乗院の門徒が営んでいた。帰命院は香取神社と隣あっていて、香取神社の南側にあった。本尊は不動明王で、現在、さらに南側にある道路の路傍に帰命院の本尊と思われる不動明王像が祀られた祠がある。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------